

第一部 講演3

顔面潮紅に漢方薬が有効であった症例



佐々木 和江 先生

医療法人社団啓友会 久米川病院 皮膚科

1987年 香川医科大学医学部 卒業
1988年 香川医科大学医学部附属病院皮膚科 助手
1991年 高松赤十字病院皮膚科
1993年 善通寺前田病院皮膚科
1999年 香川医科大学医学部附属病院皮膚科 助手
2001年 ミタニ藤田病院皮膚科
2018年 久米川病院皮膚科

はじめに

顔面潮紅(紅斑・熱感)はアトピー性皮膚炎・にきび・酒皰・皮膚筋炎などの皮膚疾患に伴って見られることもあるが、体質的に見られることもある。西洋医学的に治療対象外とされることが、治療に難渋することも多い。

症例 1

症 例：77歳 女性。

主 訴：以前より発作的に顔面が赤くなる、手が火照ったり冷たくなったりする。

治療歴／東洋医学的所見：図1に示す。

臨床経過(図1)：X-8年3月1日に加味逍遙散を処方した。3月11日に改善傾向がみられ、5月21日には顔面潮紅はほぼ消褪した。加味逍遙散の服用によって排便後のすっきり感があり、体調が良いとのことで本人が服用の継続を希望され、減量しながら服用を継続した。83歳の時点で、便秘気味(コロコロ便)の訴えがあり、腸燥便秘と考えると潤腸湯に変更した。

症例 2

症 例：52歳 女性。

現病歴：X-6年から顔面の紅斑・火照り。

治療歴：今までの治療(ミノサイクリン、ロキシスロマイシン、メトロニダゾール)では満足度は低く、X年5月28

日に当院を初診した。

治療歴／東洋医学的所見：図2に示す。

臨床経過(図2)：加味逍遙散と四物湯を処方したが、次の予約前(6月2日)に「薬が全然効かない」と怒って来院されたため、黄連解毒湯に変更した。5日後(6月7日)の受診時に紅斑・熱感は軽減したが、顔面がヒリヒリして眠れないとの訴えがあり、四物湯を追加した。

1週間後(6月14日)の受診時に顔面の潮紅とヒリヒリ感が「改善している気がする」とのことで、その後も服用を継続した。11月25日に軽快中止となった。

図1 症例1 77歳 女性

主 訴

以前より発作的に顔面が赤くなる。手が火照ったり冷たくなったりする。

所 見

- やせ型 皮膚は乾燥気味
- 便秘・下痢なし
- 腹診：腹力2/5
- 顔面：びまん性紅斑・熱感
- 脈診：沈 弱 数
- 舌診：尖った形 紅舌、薄黄苔

経 過

- X-8年3月 1日 加味逍遙散エキス細粒7.5g/日(分3)処方。
- X-8年3月11日 改善傾向。
- X-8年5月21日 顔面潮紅ほぼ消褪。
- 服用していると排便後すっきり感があるとのことで服用の継続を希望。

臨床経過

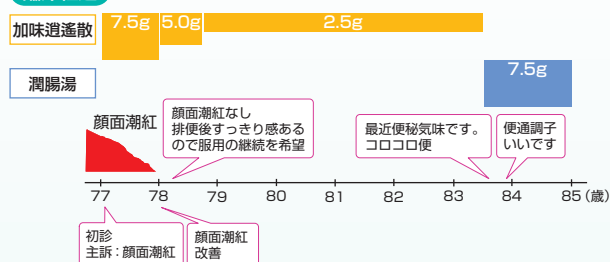


図2 症例2 52歳 女性

主訴／現病歴

X-6年から、顔面の紅斑・火照り。

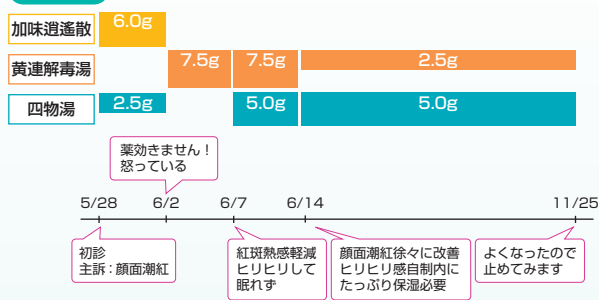
治療歴

- ミノサイクリンで口内が荒れる。
- ロキシシロマイシンは有効だが胃もたれ。
- メトロニダゾールの内服は合わなかった。

所見／東洋医学的所見

- やせ型 顔面は赤黒く火照り。
- 便秘・下痢なし、冷えなし。
- 脈診：沈
- 腹診：腹力2/5、右胸脇苦満
- 舌診：暗紅舌、薄黄苔

臨床経過



考 察

症例1は、逍遙性熱感・冷えのぼせ・虚証から加味逍遙散が有効であった。顔面潮紅は改善するも排便後のすつきり感のため加味逍遙散の服用を継続したが、加齢に伴う腸燥便秘になってきたため潤腸湯に変更した。

症例2は加味逍遙散が無効であり、顔面紅斑・熱感に清熱剤の黄連解毒湯と、表面のヒリヒリ感に対しては四物湯を追加することで、温清飲の方意となった。清熱後に補血をしたことが結果的には良かったと考えている。

顔面潮紅に用いられる生薬を図3に示す。また方剤としては、桂枝茯苓丸・桃核承気湯などの駆瘀血剤、肝気鬱結を治する加味逍遙散、気の巡りを改善する女神散、清熱剤

の黄連解毒湯に補血作用を追加した温清飲や白虎加人参湯が汎用される(図4)。

図3 顔面潮紅に用いる生薬

寒 涼

石膏 清肺胃火熱
黄連 清瀉心胃火熱・燥湿
黄柏 下焦清熱燥湿・堅腎益陰
大黃 通便瀉熱・清熱燥湿・活血通經

知母 清熱・滋陰降火
黄芩 中焦清熱燥
山梔子 三焦清熱瀉火
牡丹皮 涼血活血

活血化癥

桃仁 破血散瘀

川芎 行氣活血

補 血

當歸 補血活血・潤腸通便・調經

白芍 養血柔筋・緩急止痛

順 氣

桂皮(+甘草) 上衝を主治する

図4 顔面潮紅に用いる方剤

桂枝茯苓丸

桃仁 牡丹皮 桂皮 芍薬 茯苓
冷えのぼせ 瘀血 ⇔ 活血化癥

桃核承気湯

桃仁 桂皮 大黃 芒硝 甘草
冷えのぼせ・便秘・精神不安定 瘀血・心熱・腸燥便秘 ⇔ 破血化癥

加味逍遙散

柴胡 當歸 芍薬 白朮 茯苓 生姜 薄荷 山梔子 牡丹皮 甘草
ホットフラッシュ・イライラ・心気症的不定愁訴
脾虚・血虚+ストレス → 肝気鬱結・心肝火旺 ⇔ 疏肝解鬱・健脾養血・清熱

女神散

香附子 黄連 黄芩 當歸 川芎 人参 白朮 桂皮 甘草 檳榔子 丁香 木香
頑固なめまい・のぼせ・頭痛・肩こり
氣血兩虚+七情 → 上衝・血熱 ⇔ 理氣活血

黄連解毒湯

黄連 黄芩 黄柏 山梔子
イライラ・眉間や目の充血 三焦実熱・血熱 ⇔ 清熱瀉火

温清飲

當歸 地黄 芍薬 川芎 黄連 黄芩 黄柏 山梔子
赤黒く乾燥肌 陰虛火旺・血熱 ⇔ 養血補陰・清熱涼血

白虎加人参湯

知母 石膏 人参 甘草 粳米
全身熱感・口渴 裏熱 ⇔ 清熱・益氣生津

赤：熱・温 温める生薬 紫：平 青：涼・寒 冷やす生薬

Discussion

木村：加味逍遙散と黄連解毒湯を顔面潮紅に使用する際の鑑別のポイントを教えてください。

佐々木：冷えの有無が大切で、足や下腹部の冷えなどがない方は黄連解毒湯、ある方は加味逍遙散を使用します。

木村：症例2では清熱後の補血が良かったとのことでした。石膏を含む白虎加人参湯とどのように鑑別されますか。

佐々木：口渴が強く、冷たい飲み物をグイグイと飲みたいという方には、石膏が配合された方剤が適応になります。

木村：桂枝茯苓丸との鑑別についてはどのようにお考えですか。

佐々木：桂枝茯苓丸はさほど気の異常はなくピンクがかった淡い紅斑の方に、黄連解毒湯は顔が真っ赤で頭に血が上ったようなイメージの方に用います。